

エコひょうご

冬号

2015
Winter
No.78



寄稿

光害、天文、そして私たち

地域の環境活動

兵庫運河を美しくする会

企業訪問

積水ハウスリフォーム株式会社

市町の取り組み

芦屋市

協力と継続重視の活動で、夢は運河で潮干狩り

水面積では日本最大の
兵庫運河を見守り続けて

水面積が約34haと日本最大規模の兵庫運河は、兵庫運河、兵庫運河支線、新川運河、苅藻島運河、新湊川運河の5つの運河の総称です。かつて兵庫津として栄えましたが和田岬付近は風波が高く、船の航行に難があったため1875年の新川運河に始まり、1899年に全体が開通しました。以来大正から昭和にかけて商工業地域として栄え、第2次世界大戦後は貯木場として利用されてきました。「兵庫運河を美しくする会」は、公害問題が叫ばれた当時、地域社会への貢献を目的として1971年に設立。兵庫運河の水質浄化や清掃活動、美化意識啓発活動などに取り組んできました。

会の活動も地域に定着してきました。「清盛橋の近くに花を植えていますが、近くのマンシヨンの人が「私たちが植えていいか」と参加され、今ではその人たちが中心の花壇になっています。掃除していると、散歩している人から「ありがとうございます」と声をかけられることも年々増えてきました」と現会長の山下邦人さん。2010年6月には兵庫県の環境保全功労者賞（知事表彰）を受賞されました。



きれいになった兵庫運河。
清盛くんも見えています。

兵庫漁業協同組合主催の
ヒラメの放流も会でお手伝い。



人がどこに
ゴミを捨てやすいかも
わかってきます。



アサリの育成実験の様子。
昔の運河を知る人には意外なようですが、
アサリは検査の結果食べられるそうです。
山下会長も酒蒸しにして食べたとか。



漁協など近隣の団体とも互いに協力
アサリの育成実験や
ヒラメ等の稚魚の放流も

会の設立当初は汚かった運河も、企業の廃水管理が徹底されたこともあり、今では水底が見えるくらいにきれいになりました。また、多くの種類の魚介類が生息し、6月には産卵で水面上がってくるコウイカを見かけることもあるそうです。

2012年からは兵庫漁業協同組合がアサリの育成実験を開始しました。アサリなどの二枚貝は水をろ過してきれいにするとともに、アサリの卵や稚貝は他の生き物の食料となり、魚が住みやすい環境になります。また、オコゼ、ヒラメの放流や、2015年からは里山の間伐や手入れで出た木や竹を運河に沈めて、イカやエビの住みかを作る実験も始められました。

大阪湾よりも栄養分のある水質らしく、豊富に生息する蟹をチヌやセイゴが食べにきます。この他にも兵庫県の絶滅危惧種指定のクチバガイが見つかるなどたくさん種類の生物が生息しています。

兵庫運河を美しくする会をはじめ、兵庫漁協、兵庫運河真珠貝プロジェクト、兵庫水辺ネットワークの4団体で「兵庫運河の自然を再生するプロジェクト」の名称で、取り組みの際には互いに協力し合います。「どこが主催するにしても他のところが手伝う。無理に人を集めるのではなく、来られる人がくる」というのが継続の秘訣だそうです。「地域のこともたちに潮干狩りをさせてやりたい」という団体のみなさんの目標がかなう日も近そうです。